

併用し、著明な制吐効果が得られた。

15. TUR-P の管理

香村衡一、並木徳重郎(千葉労災)

最近3年間に施行したTUR-P 115例の管理上の問題点を検討し、以上の結論を得た。水中毒の予防の為には、術前補液より、Na含量を多く、水分負荷を少なくする。術中は、早目に利尿剤を使用し、患者の呼吸症状に注意する。診断は血清Na値(120mEq/L以下)、動脈血ガス値($PO_2 \downarrow$ or $PCO_2 \uparrow$)が有用である。腎機能低下者は、水中毒の危険が高まる。カテーテル留置例は、感受性のある抗菌剤の術前投与で、術後熱発が少なくなる。

16. 精子形成のホルモン支配

伊藤晴夫(千大)

精子形成に対するホルモン支配については、Steinber-

gerらのまとめたものがよく知られている。これは主にラットにおいて得られたものであるが、ヒトにおいてもほぼ同様であることが判明してきた。また、テストステロンとFSHはセルトリ細胞に働いて、精細胞には二次的に作用する。

造精機能障害者における、血中LH、FSH、テストステロンの動態についてのべ、ホルモン療法の効果について言及した。

17. シオノギ癌115とそのサブラインの研究の現況

脇坂正美(千大)

シオノギ癌115とそれより由来した2つのサブライン(CS-1, CS-2)について、その研究の現況について概説し、その研究の臨床的価値について述べた。